

News Release

2019年2月7日

昭和産業株式会社 平成31年3月期第3四半期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：新妻一彦）の平成31年3月期第3四半期連結決算は、売上高194,802百万円、経常利益8,511百万円となりました。平成31年3月期通期連結業績予想については、売上高260,000百万円、経常利益9,100百万円を見込んでおります。

【平成31年3月期第3四半期連結決算】

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、緩やかな回復基調で推移いたしましたが、為替や株価の不安定な動き等により、依然として先行きが不透明な状況が継続しております。

このような状況の中、当社90周年を迎える2025年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」を策定し、その実現に向けた足場固めと位置付ける1st Stage「中期経営計画17-19」に取り組んでおります。5つの基本戦略「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各種施策の推進に努めております。

当第3四半期連結累計期間では、「①基盤事業の強化」「②事業領域の拡大」の施策については、昨年4月2日付でカルビー株式会社よりガーデンベーカリー株式会社の発行済株式の66.6%を取得し、連結子会社といたしました。当社は、株式会社セブン-イレブン・ジャパン向けに小麦粉・ミックス等の原料供給から冷凍パン生地製造、焼成までの一貫体制を有しており、さらにガーデンベーカリー株式会社とその子会社タワーベーカリー株式会社を含めた相互連携を強化することで、競争力のある商品の開発と生産性の向上を図っております。

さらに、「②事業領域の拡大」の施策については、昨年11月に経済発展が著しいベトナムのハウジャン省に、ダイフオン製粉グループと合弁でMEKONG INTERNATIONAL MIX JOINT VENTURE COMPANY LIMITED（インターミックスメコン社）を設立いたしました。来年春にはプレミックス製造工場の操業開始を予定しており、既存のホーチミンの工場と併せまして2工場体制となります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高は194,802百万円と前年同期に比べ17,739百万円（10.0%）の増収となりました。営業利益は7,353百万円と前年同期に比べ1,911百万円（35.1%）の増益、経常利益は8,511百万円と前年同期に比べ2,155百万円（33.9%）の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,065百万円と前年同期に比べ1,814百万円（42.7%）の増益となりました。

【平成31年3月期連結業績予想】

平成31年3月期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）の連結業績予想につきましては、平成30年11月2日に公表した予想から変更なく、連結売上高260,000百万円、連結営業利益7,900百万円、連結経常利益9,100百万円、親会社に帰属する当期純利益を6,300百万円と見込んでおります。

以上

（本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先）

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当：大内

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号 TEL：03-3257-2042